

「ありがとう西高！」新聞

発行元：「ありがとう西高！」実行委員会広報室
Mail : nishikouarigatou@gmail.com
#ありがとう西高

Instagram : nishikouarigatou
twitter : @nishiko_arigato
ブログ : <https://thanksomiyawest.blogspot.com/>

西高の歴史を振り返る

2011（平成23）年4月、東日本大震災の傷跡が残る中、記念すべき50期生の入学式が行われた。50年という節目を迎え、埼玉県内でも有数の人気校の地位を築いていた西高。誰もが西高の伝統が永遠に続いていくものだと信じていた。そんな西高に突如として転機が訪れる。

第6回 50周年、そして歴史に幕が。

2011年11月19日、市民会館おおみやにて創立50周年式典が盛大に行われた。本来の記念式典であれば、教育長や市長が祝辞を述べのみだが、そこは行事に燃える西高、また先生方であった。それまで行われていなかった、合唱コンクール、スピーチコンテストなどの特別行事を式典に盛り込んだ。当時式典を企画した先生に話を聞くことができた。

「西高の記念すべき50周年式典をありきたりな形にしたいと思わなかった。せっかく盛大に行うのなら、それまで行わなかった行事を盛り込みたいと思った」と語る。合唱コンクールは校歌を歌う一次予選、自由曲の二次予選、9月の文化祭オープニングではスピーチコンテストの予選が行われた。

そして迎えた記念式典当日、前半はさいたま市教育長やPTA会長の祝辞とおごそかな雰囲気で行った。後半は合唱とスピーチの決勝を行い、共に当時2年生だった49期生のクラスが優勝した。スピーチの優勝者は「西高への感謝」を題材にし、また合唱優勝クラス

はいきものがかりの『ありがとう』を歌い上げた。先生と生徒が一体となって作り上げた創立50周年記念式典だった。

入試倍率も高く、埼玉県内でも有数の人気校の地位を築いていた西高。この時は誰もが西高の伝統が続いていくと信じていた。

2014（平成26）年5月、突如として大宮西高校の生徒募集停止と中等教育学校の設置が発表された。臨時の生徒集会や保護者説明会が行われるなど先生や西高生、また卒業生にも動揺が広がった。そして「平成30年度以降の生徒募集停止」と「中等教育学校の平成31年4月開校」が決定される。

昭和半ばから平成、そして令和。西高は多くの伝統を紡ぎながら最後の1年を迎えた。現在の56期生が「最後の西高生」となる。

来年3月の閉校以降、西高の校舎は重層体育館を除いて解体。1万8,000人を超える卒業生が青春を過ごした「校舎」はなくなってしまふ。しかし「西高での思い出」は一人ひとりの心の中で必ず生き続けると信じたい。



現在のスタディルームの様子（2019年5月）

あの場所は、今 -スタディルーム編-

南校舎3階の渡り廊下付近に文化部の部室があったことを覚えているだろうか。最近の卒業生ならばスタディルームとして、自習や面接練習で使った思い出があるに違いない。

かつてこの場所は、写真部、地理歴史研究会、バトン部の部室だった。簡易的な白い壁とドアで各部屋が区切られていた。各部屋は約20平米程度。机と古いパソコンがいくつか置いてある殺風景な部屋。床のタイルは割れていてコンクリートがむき出しになっていた。決して綺麗とは言えないが、この場所には秘密基地のような雰囲気があった。

記者が在籍時に、この部屋は「スタディルーム」として改修された。壁の一部が赤くなり、部屋はガラス張りの開放感ある部屋に生まれ変わる。「スタディルーム」は主に受験勉強のための自習室として設備され、放課後には3年生をはじめ多くの生徒が勉強部屋として利用していた。最新PCが設置され、生徒は「受験サプリ」というサイトを利用して費用負担なく受験対策が可能になった。他にも、自習室や面接・補習用の小教室も備えられ、推薦入試やAO入試を控えた受験生が先生とともに練習を重ねていた。記者もAO入試を控えていたため、様々な先生に頼んでこの場所で面接練習をしていただいた。

雰囲気はがらりと変わったが、部屋の構造自体は今も変わっていない。部屋の入り口には写真部の作品が展示され、西高の雰囲気がよく表れている。校舎が無くなる前に、訪れてみる価値はありそうだ。（石井）

公式ブログ開設しました！

「ありがとう西高！」実行委員会のブログが開設された。これまでの本紙の内容や、卒業生との対談を中心に掲載される予定だ。担



スマートフォン、PCどちらでもご覧いただけます



当者によれば、今後は実行委員会の活動報告も交えて毎週更新を目指すとのこと。

実行委員会からの情報発信チャネルは、Instagram、Facebook、TwitterといったSNSを中心に行われてきたが、今後はこのブログも加わる。ぜひブラウザのお気に入り登録して毎週ご覧いただきたい。

<https://thanksomiyawest.blogspot.com/>

大宮西高

西高時代の原体験が細ぐ、女優の道

緑川 静香さん（女優）

彼女は颯爽と現れた。女優、タレントとして多方面で活躍する緑川静香さん。西高出身であることを公開するのは、本誌が初公開となる。西高時代から読者モデルとしてファッション誌を賑わせていた、華やかな印象がある彼女。しかし先日テレビで「家庭が貧乏」であったことを告白している。西高時代はどんな生活を送ったのか、そして現在の活躍にどうつながっていったのか、聞いた。



取材場所に颯爽とあらわれた緑川さん。今年8月に次の舞台を控える。

入学式当日に雑誌からスカウト

まず、彼女が大宮西高を選んだ理由は「何と言っても、制服が可愛かったから」。県内の制服を比べてみて、いちばん気に入った制服の高校を受けたのだという。

入学式の帰り道、念願の制服を身につけ自宅に向かう途中、ふらりと立ち寄った無印良品で、彼女の人生を変える出会いを迎えた。ファッション誌のスカウトだった。

雑誌SEVENTEENで紙面デビュー。一般人である「読者モデル」としてであったが、後の人気投票で堂々の1位に。読者モデルながら、プロの専属モデルと同列の扱いで紙面を飾るようになった。まさにシンデレラストーリー。読者モデルとしての芸能活動は、高校卒業まで続いた。もちろん、学生生活も並行していて、平日の昼は授業を受け、夕方から

撮影に参加したり、土日に撮影を調整したり、苦労しながらも情熱を持って続けた。

西高卒業後はプロのモデルに転身か、と思いきや、彼女が選んだ道は「女優業」。現在はバラエティやグラビアなどに活動の幅を広げているが、活動の中心は「お芝居を演じること」に置いている。そんな彼女が女優の道を選んだきっかけは何だったのか。それは高校時代の部活動にヒントが隠されている。

ダンス部に熱中忘れられぬ舞台

当時の西高でいちばんキラキラしていたのはダンス部だった。と緑川さんは言う。緑川さんの入学当時、創部間も無いものの西高ダンス部は既に全国大会レベル。入部は先輩からのオーディションがあって、選ばれし者しか入部を許されなかった。

入部オーディションを無事通過し、晴れて部員になった緑川さんは、モデルの撮影がある日以外はダンス部の練習に汗をかく。「ジャズとヒップホップの2種類があって、

私はジャズのチームになった」当時は教えてくれる先生がおらず、先輩たちから振り付けを教わった。曲目を選ぶのも、ソロダンスのメンバーも、自分たちで全部決めていた。練習場所は、校舎内の廊下。全身を写す鏡もなく、ガラス扉に写った姿を見ながらの練習。それでも楽しかった思い出しかない。

記憶に残る発表会を聞くと「新入生歓迎会と、文化祭の後夜祭ステージ」と即答する。「思えば舞台デビューはここだった」と、彼女は語る。人前で演じることの魅力は、ダンス部が教えてくれたものだった。

「貧乏」の経験が今を生きる糧に

一見して、華やかな高校生活を送っていたように見える彼女だが、家の生活は一転して厳しいものだった。「本当に貧乏だったけど、高校の頃はもう開き直ってネタにしていたかな」。そんな彼女が女優を目指し、今もその道を進んでいるのはもうひとつの理由がある。母親の存在である。（次回に続く）